

自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5 年 9 月 19 日

【事業所概要【事業所記入】】

事業所番号			
法人名	医療法人社団杏愛会 高橋医院		
事業所名	グループホーム恋の水		
所在地	広島県尾道市高須町恋の水924-33		
	電話番号	0848-46-2240	
自己評価作成日	令和 5 年 8 月 1 日	評価結果市町村受理日	令和 5 年 10 月 10 日

※事業所の基本情報は、介護サービス公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価機関概要【評価機関記入】】

評価機関名	一般社団法人 みらい
所在地	広島県福山市山手町1020番地3
訪問調査日	令和 5 年 9 月 4 日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

<p>医療面では、目の前に医院、隣に薬局があり、当施設内にも看護師がおり、24時間訪問看護と医療連携を図っている。日々の健康管理や相談を行い、緊急時にもすぐ対応できる体制をとっている。食事の面では、朝食と昼食は栄養士によるバランスのとれた食事を提供している。リクエストによるメニュー、一人ひとりに応じた食事形態、毎月行事食を提供。旬の食材を取り入れる等季節を感じられるように工夫して食を楽しんで頂いている。また、利用者様にゆったりと安らいだ時間を過ごして頂けるよう、有資格者の職員によるアロマ・トリートメントマッサージを提供している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>近隣には郵便局、公民館があり、また、東尾道駅も近く、便利な場所である。協力医療機関も目の前にあり、医療面に関しては、協力医も近く、24時間指示や対応が得られる体制も構築されていると共に看護師の職員もいる。また、同法人の訪問看護ステーションも併設されていて、訪問看護師が週1回訪問され、日々の健康管理もできていて常に適切な医療が受けられる様支援され、家族も本人も安心である。ケアに関しても職員で考えられた理念「あなたの笑顔が見たいから、笑顔を大切に暮らす、あなたの言葉を探します、心の声を理解します、ありがとうを大切に暮らすのお手伝いをします。」を全職員が共有し、ありがとうと笑顔を絶やさない暮らしを目指し、その人のペースを大事に一日を心地よく過せる支援を心掛けている。又、食も大切にされ、栄養士による献立で栄養バランスや食べやすさ、また、旬の食材を取り入れ、季節感を味わってもらおうと共に、一人ひとりの好みも把握し、行事食も月1回は提供し食が楽しみとなる様取り組まれている。地域との交流も近隣の方が気軽に立ち寄られ、玄関先でお話する事もしばしばあり地域の一員として理解が得られている。コロナ禍ではあるが、家族との絆が途切れない支援を心掛け、毎月現状を写真付きの便りとお手紙を添え報告すると共に、訪問された際には玄関先等でお会いしてもらい、その際にも日頃の様子を動画で見てもらい現状を理解してもらっている。家族から励ましやお礼の手紙を頂く事もあり、信頼関係が構築されている。理念の如く笑顔と優しさが感じられる事業所である。</p>

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼にて、職員全員で理念を唱和し、常に意識できるよう、各ユニットにも掲示している。	理念を唱和する事で、再認識に繋がると共に振り返る機会とし、全職員がブレのないケアを心掛け、日々実践に繋げている。目につき易い事務所や各ユニットに掲示されている。以前の理念に「あなたの笑顔を見たいから」を加えられ笑顔を大切に支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	シティークリーニングに参加している。コロナ禍の為、以前行っていた保育園との交流や、公民館での生け花への参加等、実施できていない。コロナ禍が終息したら、以前のような活動や、認知症カフェ等にも参加していきたい。	コロナ禍の為、地域行事や公民館行事にも参加出来ないが清掃活動には参加している。又、運営推進会議の委員の方々の声かけが常にあり、地域との繋がりは構築されている。近隣の方も良く玄関先まで来られ声かけしてもらえる等、地域の一員として交流はできている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自宅で生活している方に、自治会長さんを通じて認知症の理解や支援などの話をしている。コロナ禍が終息したら、以前のように夏祭りや恋の水カフェ等、地域交流を行っていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、取り組み状況を報告し、話し合っている。運営推進会議での意見等は、全体会議にて周知し、取り組んでいる。	コロナ禍ではあるが、感染要望を徹底し、会議は実施し、家族代表、地域代表、民生委員、包括職員等の参加の下、利用状況や現状、また、ヒヤリーハット等広範囲に報告し、参加者一人ひとりに意見をもらい、サービスに活かしている。栄養士による食事面の報告もしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点等は連絡を取り、事故報告書や運営推進会議の記録等、必ず担当者に手渡しで提出している。	疑問に思う事があれば気軽に相談出来、助言や情報等が得られている。又、運営推進会議録を持参する際には現状や取り組み等について伝え、理解を得ると共に協力関係は築かれている。包括との連携も図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止についての勉強会を年に2回開催している。また、3か月おきに身体拘束等廃止委員会にて、拘束の兆候はないかを検討し、ユニット会議や全体会議にて、話し合い及び周知をおこなっている。	基本身体拘束はしない方針であり、していない。身体拘束廃止委員会を3ヶ月毎に開催し、リスクに対する検討や確認を行っている。また、ユニット会議や全体会議等でも話し合うと共に日々利用者個々の身体状況を確認しながら、拘束しないケアを徹底している。年2回は研修も行い、正しく理解されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に3回、勉強会を開催しており、虐待防止委員会を中心に、普段のケアの中で虐待の兆候はないかの検討をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会を年に1回開催している。現在、成年後見制度を活用されている方もおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書等、文章を読み上げながら、説明をおこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1回は家族と現状の報告や意見交換をおこなっており、他にも面会時や細かな報告等で、普段から話しやすい環境を作り、意見や要望にこたえられるよう努めている。	訪問制限があるが、利用料を持参される際に、日頃の様子を口頭で伝えたり、動画で見てもう等する中で意見の把握に努めている。又、家族とは玄関先でお会いしてもらったり、一緒に散歩してもらう事もある。その際、家族が感じられた事があれば聞く様にし、色々な場面での意見等は反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼や、毎日のミーティング、ユニット会議や全体会議等で意見を聞き、全員で検討し、反映させている。管理者との個人面談の時間を設け、個々に職員の相談や意見を聞き、反映させている。	ケアの中での気づきがあればその都度聞いている。又、毎日の朝礼やユニットミーティング、全体会議等あらゆる会議の中で意見の把握に努めている。それぞれの場面での意見等は反映させている。管理者との個人面談の機会もある。職員の思いや提案等は真摯に受け止め、チーム支援強化に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のベースアップや有休取得について等、職員が働きやすいように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の内部研修、ズームでの研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍でなかなかできていないが、状態をみながら、また外部の研修などに参加して交流を深めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	優しく笑顔での対応を心がけ、寄り添う姿勢で要望等を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていることや要望等、思いをお聞きし、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っていることや要望等をお聞きした上で、望まれているサービスを提供することができるよう、努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段から1人ひとりに寄り添い、一緒に洗濯物を干したり、会話や体操、レクリエーション等も楽しんでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からも情報をもらいながら、情報共有を行っており、共に本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が来られた時には、コロナの状態をみながらではあるが、窓越しでの面会や時間制限などで、なるべく会えるように工夫をしている。コロナ禍で、なかなか行きたい所へは行けていないが、今までの生活歴を聞き、写真を見ながら話をしたりしている。	毎月の利用料支払いで訪問された際には、玄関先や窓越しでお会いしてもらったり、希望で訪問された時には家族と散歩してもらおう等、家族との絆が途切れない様柔軟に対応している。また、感染予防を徹底し、ドライブで馴染みの高見山へ行かれたり、昔の話をすることで馴染みの場所等を話題とし懐かしさを感じてもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの性格や関係性も把握したうえで、席など考え、洗濯物を干したりたたんだり、レクリエーションや制作など、協力しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても、これまでの関係性を大切にしている。必要に応じて対応もできている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から1人ひとりに寄り添い、本人の思いを傾聴し、把握に努めている。困難な場合は、家族に話を聞いたり、本人の行動や表情等から検討している。	日々コミュニケーションを取り、利用者に寄り添い、雑談の中や、個別対応時の会話等から思いを汲み取ることがある。口頭で言われる方もいる。個々の思いは可能な限り沿うようにしている。表出困難な方には家族の協力や生活歴から選択史を出し、その時の表情から検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から話を聞き、情報提供書等からも情報を集め、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタル測定を行い、普段の挨拶や会話から、変わったところはないか変化の把握に努めている。本人のできることはしてもらい、現状の維持・向上に努めている。その日の状況は申し送り等で全員で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のミーティングやユニット会議で職員同士で課題等を話し合い、カンファレンスで本人、家族、主治医、看護師、栄養士、介護士等、多職種で話し合い、介護計画を作成している。	家族、本人の要望、主治医の所見、日々の業務の中での課題やニーズについての職員からの意見、また、看護師、栄養士等の専門職からの意見等を基に話し合い、柔軟、かつ現状に即して計画を作成している。家族の承諾も得、全職員にも周知している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には細かく記録し、毎日のミーティングで情報共有し、グループラインでも対応の変更や状況の変化があればすぐに共有できるようにしている。月に1回のユニット会議で課題の検討を行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりに起こりうるニーズに対してその人に相応しい支援ができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で、地域の行事などの参加ができていないが、状況を見ながら、公民館や地域の行事にも参加していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望されるかかりつけ医と連携をとりつつ、適切な医療が受けられるよう支援している。	協力医療機関の往診が月2回、訪問歯科支援もあり、口腔ケアの支援もある。又、訪問看護を利用され、毎週訪問され日々の健康管理ができています。協力医は24時間対応指示が得られる体制であり、常に適切な医療支援が構築されている。結果についてもその都度家族に報告し共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には、日々の状態の変化や気づき等、すぐに報告、相談し、情報共有しており、指示を受けながら適切な受診や看護をうけられるよう、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、地域連携室と連絡を取り合い、情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にある程度の方向性を話し合い、重度化した場合や終末期については必要な段階でカンファレンスを開き、本人や家族の意向を聞き、今後の方針を話し合い、チームで取り組んでいる。	利用開始時、指針を基に説明し、理解は得られている。重度化した場合には主治医から家族に説明され、今後の方向性について主治医、看護師、家族、管理者等で話し合い、状態変化に応じ、その都度、家族に意向の確認を行い、方針を共有し家族の協力を得、チームで支援されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的実践を含め、勉強会を行っている。緊急対応の目安の表を職員が見える位置に掲示し、緊急時に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難確保計画に基づき、勉強会を年3回、災害時の訓練を年3回、行っており、周知徹底している。地域の消防署と全面的な協力体制を築いている。	年3回、火災にのみならず水害、地震等の訓練を実施すると共に南海トラフについての勉強会も年3回行い、あらゆる災害について、慌てず、速やかに対応できる様、個々の実践力を身につける様取り組まれている。地域との協力体制は築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束廃止委員会を中心に、個人を尊重したケアが来ているかの検討を定期的に行い、全体会議でプライバシー保護についてや、スピーチロックについての勉強会を行っている。	人生の先輩であり、目上の人という事を常に認識し、どのような状態になっても一人ひとりを尊重し、声かけ、対応をするよう周知されていると共にそれぞれの会議の中でも実践されているかという事を全職員で検討している。また、プライバシー、個人情報、接遇等の勉強会も実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から寄り添う介助を心がけ、信頼関係を築き、自己決定できるような声掛けに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位のケアを行い、その人なりのペースを大切に、支援している。体調に合わせて、居室で休んで頂いたり、レクリエーションを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向に沿って、衣服や髪型等の支援を行っている。また、昔していたマニキュア等もやっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の要望を聞き、献立に組み入れている。お米を研いだり、おしぼりを準備したり、食後は食器を洗ったり、お盆を拭いたり、それぞれ出来ることをやっている。月に1回の行事食や誕生日会での手作りケーキを提供している。	トロミ、ミキサー、キザミ食等利用者の状態に合わせた形態となっている。又、栄養士による献立となっていて、栄養バランスや食べやすさ等配慮された食事を提供されている。食事準備や後片づけ等、できる方にはして頂いている。行事食などはみなさんで作られ、楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を細かく記録に残し、摂取の難しい方には食べやすい形態や好みのもの等、STや栄養士などと相談しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを行っている。自立支援に基づいて本人の力に応じたケアを行っている。歯科衛生士からの助言を受けて、毎回舌ブラシを使用して口腔内の清潔を維持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導や声掛けを行っている。トイレでの排泄を基本としている。本人に合った方法で支援している。	個々の時間帯や表情、行動などから把握し、日中は、トイレでの排泄に努め、立位、座位をする事で機能維持に繋げると共に生活習慣を活かした支援に努めている。立位が困難な方も2人介助で対応し、気持ち良く排泄できるケアを心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表にて状況を把握し、Drや看護師に相談しながら排便コントロールをしている。また、栄養士と相談しながら食物繊維の多い献立に工夫したり、牛乳やヨーグルトを取り入れたりなど、個々に合わせて取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	浴槽のお湯は一人ずつ新しいお湯に入れ替えている。本人の気持ちに考慮しながら入浴の声掛けを行っている。拒否のある場合は、タイミングをみて、声掛けを行っている。入浴剤を使用するなどして楽しんで頂けるよう支援している。	週2回、時間帯は希望や身体状況見ながら柔軟に対応している。一人ひとりお湯を入れ替えると共に足ふきマットもその都度交換され気持ち良く入浴してもらう支援に努めている。拒否の方には、タイミングや声かけの工夫、また入浴剤を使用する等、色んな対応をされ清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人なりの生活が出来るように状況を把握し、個々に応じてフロアのソファや自室にて休息出来るよう支援している。不眠気味の方にはアロマ芳香浴や、アロマトリートメントを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病状、薬の内容を把握し、薬の変更や追加などがあれば都度、グループラインにて周知している。毎日のミーティングやユニット会議にて、振り返りや症状の変化等、共有、確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	充実した日々が送れるよう、個々に応じた役割を持ち、機能訓練やそれぞれ好きなレクリエーション等、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為あまり外出できていないが、ソーシャルディスタンスを保ちながら、個室を予約し喫茶店にコーヒーを飲みに出かけたり、花見や展望台へドライブを楽しんで頂いている。その時の利用者様の状態や天気など把握し、時にはご家族と一緒に外出支援を行っている。	コロナ禍の為、以前の様には外出支援はできていないが、感染要望を徹底し、ドライブで馴染みの高見山に行かれたり、春には花見等にも行かれ、その時々季節を味わってもらい五感刺激、気分転換の機会を持つよう取り組まれた。又、月1回は行事食を提供し、楽しんでもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が使用したい時には使えるように支援し、不安な時にはいつでも確認して頂いたり、本人に預けたりして安心して頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい希望があれば、事務所の電話を使用して頂いたり、手紙のやり取りが出来る環境を作っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には、いつでもくつろいで頂けるソファを置き、季節に応じた手作りの制作物を飾り、季節を感じて頂けるよう工夫している。台所からは食材を刻む音が聞こえ、生活感を感じて頂けるように工夫している。	大きなソファが2個あり、それぞれが好きな場所で過ごせる。壁には皆さんで作成された季節ごとのちぎり絵、きり絵等が飾られ時々の季節を感じてもらっている。キッチンからは食事準備の匂いや音で五感刺激となっていて家庭的である。不快な匂いや死角もなく清掃も行き届き、落ち着いて過ごせる共有の場である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり、その時の思いを尊重し、皆でゲームや制作をしたり、ソファでくつろいだり等、その人なりの時間が過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には、自宅で使用していたダンスやテレビ、家族との写真等、なじみのある物を置き、心地良く過ごして頂けるよう工夫している。	テレビ、ダンス、収納ケース、化粧ケース等使い慣れた物をたくさん持ち込まれている。家族との思い出の写真や家族が書かれた絵画、折り紙や習字等、自分の作品も飾られている。母の日のプレゼント等も置かれ、自宅に近い環境づくりをし、違和感なく快適に過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアには、名前を書いて自由に出入りできるようにしている。居室前や廊下には手摺を設置し安全に歩行できるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目【アウトカム項目】

項目		取り組みの成果(該当するものに○印)		項目		取り組みの成果(該当するものに○印)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼすべての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼすべての家族と
			②利用者の2/3くらい			○	②家族の2/3くらい
		○	③利用者の1/3くらい				③家族の1/3くらい
			④ほとんど掴んでいない				④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に一度程度ある				②数日に1回
		○	③たまにある				③たまに
			④ほとんどない			○	④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼすべての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②利用者の2/3くらいが				②少しずつ増えている
			③利用者の1/3くらいが			○	③あまり増えていない
			④ほとんどない				④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き活きた表情や姿が見られている		①ほぼすべての利用者が	66	職員は生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②利用者の2/3くらいが			○	②職員の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③職員の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
60	利用者は戸外の行きたい所へでかけている		①ほぼすべての利用者が	67	職員から見て利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが				②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが			○	③利用者の1/3くらいが
		○	④ほとんどない				④ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼすべての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②利用者の2/3くらいが			○	②家族等の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が				
			②利用者の2/3くらいが				
			③利用者の1/3くらいが				
			④ほとんどない				

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム恋の水

目標達成計画

作成日: 令和 5 年 10 月 10 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	51	電話や手紙の支援については、一部の方にしか対応ができていない。	コロナ禍もあり、遠方等の理由で面会の難しいご家族や、その為に不安のある利用者様に少しでも安心して頂けるよう、ご本人からの手紙や絵手紙にて、ご様子をお知らせする。	手紙や、絵手紙等、利用者様の状況や好みに合わせて書いて頂き、ご家族様にお送りする。	一年
2	13	内部研修には力を入れているが、コロナ禍もあり、外部研修にはあまり参加出来ていない。	職員の介護や認知症、その他に関する知識及び技術の向上に努める。	ズームも含め、外部研修への参加の機会を設け、職員に働きかけていく。	一年
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。